

阿弥陀如来

如来は最高位の悟りに至った。彼らは仏教寺院で主要な崇拝対象となっている。この阿弥陀如来の穏やかな表情と僧職を示す質素な服装は、高められた精神状態を強調している。四天王として知られる恐ろしい顔つきの「四・天・王」は、ハスの花の台座の上に落ち着いた面持ちで座る仏陀を守っている。満開のハスは悟りを示しているため、阿弥陀如来は、たいていハスの上に座っているか立っているように表現されている。

阿弥陀はサンスクリットで「阿弥陀仏」と言われているが、これは「無量光」を意味する。そのため、阿弥陀はしばしば「無量光仏」と呼ばれる。鎌倉の高徳院にある、象徴的な巨大な銅製の仏像は阿弥陀如来を別に解釈したものである。

この木像は高さ 2.19 m。無名の地元の仏師が平安時代後期（1143 年）に彫ったと言われている。一般的な構造体は、同じ時期に作られた、他の大きい彫刻と同様に、一つの塊でなく、複数の木片をつなぎ合わせるという当時の新しい彫刻技術を使用している。